

# 「女性論」プロジェクト研究報告

A Report of the Women's Studies Project

## 「女性論」プロジェクト研究編著の キャリア教育教材についての考察

Consideration of the Teaching Materials for Career Education Created  
in the Women's Studies Project Research

梶山女学園大学人間関係学部教授

小倉 祥子

Shoko Ogura

梶山女学園大学現代マネジメント学部教授

東 珠実

Tamami Azuma

梶山女学園大学国際コミュニケーション学部教授

影山 穂波

Honami Kageyama

梶山女学園大学人間関係学部教授

藤原 直子

Naoko Fujiwara

梶山女学園大学人間関係学部教授

吉田あけみ

Akemi Yoshida

### 1. 「女性論」プロジェクト研究とキャリア 教育用教材

梶山女学園「梶山人間学研究センター」のプロジェクト（研究活動）の一つとして、「女性論」プロジェクトでは、2005年度から2020年度にかけて16年間という期間にわたり、以下の2点に焦点をあてて研究活動を実施<sup>1)</sup>してきた。

①「時間軸」の推移を背景に、未来に向かい、学生・生徒一人ひとりが自身にとって適切な「ライフスタイル・ライフコース」を選択できるようにするための「学校における教育活動」、すなわち「キャ

リア教育」の在り方について検討を重ね、そこに「女子教育機関」の使命を見出そうとする研究活動

②学生・生徒が、学校教育とその後の生涯教育を通して、過去から現在（今）の自分を振り返ると同時に、未来の自分について見通しをもち、希望の姿を描くことができるような、キャリア教育能力育成を視点とした研究活動

特に、②においては研究活動の成果として、高等学校や大学におけるキャリア教育の現状やカリキュラムの内容を把握し、学生・生徒の進路選択や職業キャリアを含むライフ

コースの希望を検討する（実現可能にする）ための効果的な教材として、ライフデザインを支援するいくつかのテキスト教材を作成してきた。

例えば、2010年度の研究活動では、本学園のキャリア教育の伝統と「人間になろう」という教育理念を念頭におきながら、学生・生徒を対象とした、ライフデザインを描くために効果的だと思われるワークや、家庭・地域、教育、職業といった幅広い領域の情報を盛り込んだ『SUGIYAMA私のキャリアマップ』（冊子）を作成（その後情報更新のために、2013年3月、2014年5月、2016年4月、2018年3月に一部改訂）した。

また2013年度の研究活動<sup>2)</sup>では、20歳代から80歳代までの異なる世代の8人の相山女学園大学卒業生に、在学当時の様子やその後のライフステージを振り返ってもらい、在学生に対するメッセージをまとめた『ロールモデル集・相山発の女性たち』（冊子）を作成した。こうしたOGからのメッセージは、在学生が未来のライフキャリアをイメージする際に多くの示唆を与えるものになるのではないか、という狙いから作成したものである。

その後、2017年度の研究活動では、2013年版のロールモデル集を全面改訂し、20歳代から40歳代の13人の相山女学園大学卒業生についてまとめた『ロールモデル集・相山発の女性たち Vol.2』（冊子）を発行している。

## 2. テキスト教材の実践

### （1）テキスト教材の活用および改訂について

以上のように、「女性論」プロジェクト研究活動と同時に、教材研究を実施し、作成し

たテキスト教材がこれまでどのように活用されてきたのか、大学における実践例をあげていく。2011年3月に発行された冊子『SUGIYAMA私のキャリアマップ』は、本学学部共通科目である「人間論」のキャリア教育（全15回中4回分<sup>3)</sup>）の副教材として、新入生全員に配付されている。同じく冊子『ロールモデル集・相山発の女性たち』についても2014年度以降の「人間論」キャリア教育担当教員によっては講義内で利用したり、読み物として配付したりしている。

これまで複数回にわたり改訂している『SUGIYAMA私のキャリアマップ』の章構成、および各章のコンテンツは、図表1に示す通りである。「私」を知る、家族について、学びについて、職業について、将来のワーク・ライフ・バランスについて、そして最後に今から80年後までのライフデザインをイメージできるような内容を盛り込んでいる。各章では現状把握のための資料データを引用しており、このデータの更新のために、ある程度短い間隔で改訂する性質の教材となっている。

### （2）『SUGIYAMA私のキャリアマップ』活用実践

冊子『SUGIYAMA私のキャリアマップ』は、図表1に示すように6章で構成されており、それぞれテーマの異なる内容が盛り込まれているため「人間論」キャリア教育の4回分という限られた講義内で、内容のすべてを学生に伝えることは難しい。またこの教材以外にも、本学キャリア育成センターキャリア支援課が作成している『CAREER GUIDE BOOK』（各年）や、それぞれの学部のカリキュ

ラムへの理解を深めるために『履修の手引き』を熟読したり、『大学案内』の学部別カリキュラム表を比較したりするなど、「人間論」のキャリア教育の講義内で網羅しなくてはならない内容・情報は複数ある。

実際に星が丘キャンパスと日進キャンパスで「人間論」キャリア教育を担当している教員は、これらの複数の副教材をどのように利用しているのか、また、効果的な教材として『SUGIYAMA私のキャリアマップ』が機能しているかについての検討を実施したことはない。そこで今回は、「人間論」キャリア教育を担当している3人の教員の実践例から、『SUGIYAMA私のキャリアマップ』の内容について検討を行うこととする。こうした検討から、短期間で改訂をしている性質上、さらに充足したほうがよい部分についてなど内容のブラッシュアップをすることが可能になると思われる。

以下、図表2は、「人間論」キャリア教育担当の教員による4回分（2020年度の課題提出を含むオンライン授業）のキャリア教育の講義内で、『SUGIYAMA私のキャリアマップ』内のどのコンテンツを利用して講義を進めたのかをまとめたものである。講義内でパワーポイントなどにその内容やワーク等を直接利用して講義を進めた部分に◎を、また参考程度に紹介した、もしくは課題としてのみ利用したなどのコンテンツには○をつけている。

2020年度「人間論」キャリア教育においては、星が丘キャンパスにおいて16クラス、日進キャンパスにおいては3クラスが開講された。担当教員は星が丘キャンパスで6人、日進キャンパスでは3人である。したがって

それぞれの開講クラスでどのような内容を網羅するのかについては、ある程度のすり合わせはあるものの、担当クラスの状況や担当者によって個々の裁量があり、全教員が全く同じ内容で実施しているとは言えない。したがって、図表2は、「人間論」キャリア教育担当の9人のうち、あくまでも3人の実践例をまとめたものである。しかしその3人が「女性論」プロジェクトのメンバーであり、かつ『SUGIYAMA私のキャリアマップ』の制作側であることから、その制作意図・効果的な活用をもっとも熟知していると言える。そうした担当者の傾向から検討することは一定の意義があると考えられる。

### (3) 『SUGIYAMA私のキャリアマップ』活用実践例

教材の活用実践例について図表2のように可視化すると、担当教員の『SUGIYAMA私のキャリアマップ』の利用状況からいくつかの特徴が示された。一点目としては、予想した通り、3人の教員によって取り上げる「章」、「コンテンツ」に差異があるという点である。例えば共通しているものとしては、キャリア教育担当という性質上、「第4章 私と労働」に関しては、「解説」、「資料」のコンテンツを講義内で解説し、さらに「ワーク」も利用しており、注力していることが伺える。

職業キャリアと同じく「第3章 私と学び」においても、受講生に対して大学における4年間の履修計画を意識付け、どのような学びを深めるのかについて本章の各コンテンツを丁寧に利用していることが分かる。第3章、第6章にある「OGメッセージ」については、日進a、日進bともに利用していないが、こ

図表1 『SUGIYAMA 私のキャリアマップ』章構成およびコンテンツ一覧

章構成		コンテンツ	出所
第1章 「私」をみつめよう	解説	(1) 社会のなかで生きる「私」 (2) 社会の変化と今の「私」	
	ワーク	(1) Who am I? (2) 「私」年表をつくる (3) 「私」のプロフィール	
第2章 私と家族	解説	(1) 多様な家族形態 (2) 自分の家族とその関係	
	資料	2-1 家族の役割内閣府「国民生活に関する世論調査」 2-2 婚姻届 2-3 男女別配偶関係未婚の割合総務省「国勢調査」	内閣府「国民生活に関する世論調査」 総務省「国勢調査」
	ワーク	映画の中の様々な家族をみて、みんなで話し合ってみよう	
第3章 私の学び	解説	(1) 学習機会の平等 (2) わたしの得意分野 (3) わたしの自分づくりー(これまで)そして(これから)の学びー	
	資料	3-1 教育基本法（第三条） 3-2 進学率の推移 3-3 大学生の専攻分野別の構成 3-4 OGメッセージ 3-5 OGメッセージ	文部科学省「学校基本調査」 文部科学省「学校基本調査」
	ワーク	(1) これまでの学びを振り返ってみよう (2) 何を学ぶために大学に進学するのか／進学したのか考えてみよう (3) これらの人生で身につけたいこと、学んでみたいこと、やってみたいことを具体的に書き出してみよう	
第4章 私と労働	解説	(1) 女性の労働をめぐる変遷 (2) 日本の女性労働 (3) 女性の雇用形態と男女の賃金格差	
	資料	4-1 改正男女雇用機会均等法（第一条、第二条） 4-2 女性の年齢階級別労働力率の推移 4-3 正規雇用者と非正規雇用者の推移 4-4 一般労働者の年齢階級別所定内給与額の男女間賃金格差	総務省「労働力調査」 総務省「労働力調査」 厚生労働省「賃金構造基本統計調査」
	ワーク	(1) 就きたい職業 (2) 働き方の選択	
第5章 私のワーク・ライフ・バランス	解説	(1) ワーク・ライフ・バランス社会とは (2) 仕事に偏る男性、家庭に偏る女性 (3) わたしの理想のワーク・ライフ・バランスを目指して	
	資料	5-1 月末一週間の就業時間別雇用者割合 5-2 日本の育児休業に関する法律の変遷 5-3 第一子出産年齢別にみた、第一子出産前後の妻の就業変化 5-4 女性の年齢階級別労働力率の国際比較	総務省「労働力調査」 国立社会保障・人口問題研究所「第15回出生動向調査」 総務省「労働力調査」、ILO「ILOSTAT」
	ワーク	(1) 男性の育児休業の義務化は必要か (2) 「仕事」や「家庭生活」以外の場面での自分の姿をイメージしよう (3) 社会活動について調べてみよう	
第6章 私の未来	解説	(1) 男女共同参画社会に生きる (2) 未来の設計ーライフプランとキャリアデザインー	
	資料	6-1 男女共同参画基本法（第一条、第二条、第三条、第六条） 6-2 OGメッセージ 6-3 OGメッセージ	
	ワーク	(1) 10年後のわたしからの手紙 (2) 20年間に達成したい10の目標 (3) ライフプランとキャリアデザイン	

図表2 『SUGIYAMA 私のキャリアマップ』利用コンテンツ一覧

章構成	コンテンツ		星が丘	日進a	日進b
第1章 「私」をみつめよう	解説	(1) 社会のなかで生きる「私」	◎	◎	○
		(2) 社会の変化と今の「私」	◎	◎	○
	ワーク	(1) Who am I?	◎	◎	◎
		(2) 「私」年表をつくる		○	○
		(3) 「私」のプロフィール	◎	◎	◎
第2章 私と家族	解説	(1) 多様な家族形態		○	
		(2) 自分の家族とその関係		○	
	資料	2-1 家族の役割内閣府「国民生活に関する世論調査」			
		2-2 婚姻届			
		2-3 男女別配偶関係未婚の割合総務省「国勢調査」		○	○
	ワーク	映画の中の様々な家族をみて、みんなで話し合ってみよう		○	
第3章 私の学び	解説	(1) 学習機会の平等	◎	◎	◎
		(2) わたしの得意分野	◎	◎	◎
		(3) わたしの自分づくりー(これまで)そして(これから)の学びー	◎	◎	◎
	資料	3-1 教育基本法 (第三条)	◎	○	○
		3-2 進学率の推移	◎	◎	◎
		3-3 大学生の専攻分野別の構成	◎	◎	◎
		3-4 OGメッセージ	◎		
		3-5 OGメッセージ	◎		
	ワーク	(1) これまでの学びを振り返ってみよう	◎	◎	◎
		(2) 何を学ぶために大学に進学するのか/進学したのか考えてみよう		◎	◎
		(3) これらの人生で身につけたいこと、学んでみたいこと、やってみたいことを具体的に書き出してみよう		◎	◎
第4章 私と労働	解説	(1) 女性の労働をめぐる変遷	◎	◎	◎
		(2) 日本の女性労働	◎	◎	◎
		(3) 女性の雇用形態と男女の賃金格差	◎	◎	◎
	資料	4-1 改正男女雇用機会均等法 (第一条、第二条)	◎	◎	◎
		4-2 女性の年齢階級別労働力率の推移	◎	◎	◎
		4-3 正規雇用者と非正規雇用者の推移	◎	◎	◎
		4-4 一般労働者の年齢階級別所定内給与額の男女間賃金格差	◎	◎	◎
	ワーク	(1) 就きたい職業	◎	○	○
		(2) 働き方の選択		○	○
第5章 私のワーク・ライフ・バランス	解説	(1) ワーク・ライフ・バランス社会とは	◎	○	○
		(2) 仕事に偏る男性、家庭に偏る女性	◎	○	○
		(3) わたしの理想のワーク・ライフ・バランスを目指して	◎	○	○
	資料	5-1 月末一週間の就業時間別雇用者割合	◎		
		5-2 日本の育児休業に関する法律の変遷	◎		
		5-3 第一子出産年齢別にみた、第一子出産前後の妻の就業変化	◎	◎	◎
		5-4 女性の年齢階級別労働力率の国際比較	◎	○	◎
	ワーク	(1) 男性の育児休業の義務化は必要か		◎	○
		(2) 「仕事」や「家庭生活」以外の場面での自分の姿をイメージしよう		○	○
		(3) 社会活動について調べてみよう			
第6章 私の未来	解説	(1) 男女共同参画社会に生きる	◎	◎	◎
		(2) 未来の設計ーライフプランとキャリアデザインー	◎	◎	◎
	資料	6-1 男女共同参画基本法 (第一条、第二条、第三条、第六条)		◎	◎
		6-2 OGメッセージ	◎		
		6-3 OGメッセージ	◎		
	ワーク	(1) 10年後のわたしからの手紙	○	○	
		(2) 20年間に達成したい10の目標		○	
		(3) ライフプランとキャリアデザイン	◎	○	○

注) 講義内でその内容やワーク等を解説し、利用しながら講義を進めた部分…◎

参考程度に紹介した、もしくは課題としてのみ利用した部分…○

これは別教材（『ロールモデル集・梶山発の女性たち Vol.2』）で同内容を網羅しているためであり、重複を避けるために『SUGIYAMA 私のキャリアマップ』内での「OG メッセージ」は割愛している。

一方で、「第2章 私と家族」のように、読んでおくように紹介する程度など、「解説」、「資料」、「ワーク」のどのコンテンツにおいても3人の教員が共通して利用頻度の低い章が存在していることも可視化したことで新たに分かった。

二点目の特徴としては、教材としてのテキストの利用方法として、「コンテンツ」が制作側の想定通りに講義で取り上げられているという点である。例えば、「解説」、「資料」を講義内で取り上げつつ、それらの理解があって後に受講生が「ワーク」を実施することで各章の理解を深める、もしくは実践的な方向へと意識を向けてもらうという狙いがある。図表2で示すように、大抵の章においてそのように利用されていることが示された。

### 3. キャリア教材と「人間論」キャリア教育との連動・連携について

以上の「人間論」キャリア教育の教材としての『SUGIYAMA 私のキャリアマップ』を、これまでの活用実践を可視化した結果、今後の改訂時には、より扱いやすい教材にするために一部のコンテンツの見直しの検討が提案できるだろう。

例えば、「第2章 私と家族」については、内容を再検討するにしても一章分として残すべきなのか、もしくは章そのものは残さず、内容の一部を、「第1章『私』をみつめよう」と連動した内容として第1章に入れ込む、も

しくは未来をイメージする際に、自分の今の家族を振り返るとして「第6章 私の未来」と連続できるようなものに再構成するなどである。

また、それぞれの章にある「ワーク」や「解説」の再考も必要になるだろう。こちらも「第5章 ワーク・ライフ・バランス」内のワーク「(3) 社会活動について調べてみよう」は、図表2に示すように、3人の教員が共通して利用していないコンテンツであった。

他にも、限られた時間内で実施している「人間論」キャリア教育をより充実したものにするために、既存の『CAREER GUIDE BOOK』、『ロールモデル集・梶山発の女性たち Vol.2』など、他の資料との連携や、連携により取り扱う内容の重複を避けることを意識したブラッシュアップが必要になるだろう。

### 4. 今後の「女性論」プロジェクト研究について

今回の「女性論」プロジェクトでは、これまで本プロジェクトで制作・改訂してきた教材についてその活用実践例を振り返り、今後の教材改訂の際の検討課題を明らかにすることを行った。これまで本研究会で制作した資料がテキストとして継続利用される際には、今後実践した振り返りを参考に、数年後の改訂を検討したいと考えている。

今後の「女性論」プロジェクトにおいては、2022年度以降、研究テーマとして、昨年(2019)度の「女性論」プロジェクトで行った、「女子大学におけるLGBT等の大学施策の現状」の継続を予定している。近年SOGI（性的指向および性自認）に関する人権意識の高



まりから、教育・研究分野における性的マイノリティの配慮の必要性が指摘されている。2012年の『自殺総合対策大綱』には教職員に対する理解促進の取組みが明記され、文部科学省は2014年に性同一性障害に係る対応に関する状況調査を実施し、2015年には「性同一性障害に係る児童生徒に関するきめ細やかな対応の実施等について」を通知し、教職員に対し具体的な配慮事項が示されている。

高等教育機関においては、国際基督教大学において2012年「LGBT等の学生生活ガイド in ICU」が作成<sup>4)</sup>され、日本の大学としては性的マイノリティの学生支援に先駆的な取組みを果たしている。その後、筑波大学、早稲田大学、名古屋大学など複数の大学においてSOGIに関する取組みのガイドラインや推進宣言を出している。これらの共学の大学であれば、入学試験の受験資格に性別が要件とされないため、学生の望む性自認での学生生活を送るための合理的な配慮を行うことが求められている。

一方、女子大学においては、入学試験の受験資格に戸籍上の性別だけではなく、性自認が女性である受験生への受験資格を認めるかどうか大きな課題となってくる。女子大学においてトランスジェンダー学生の受験資格を認めるかどうかについては、すでに2020年度入学からお茶の水女子大学<sup>5)</sup>、奈良女子大学<sup>6)</sup>で開始されており、2021年度からは宮城学院女子大学<sup>7)</sup>で、2024年度からは日本女子大学<sup>8)</sup>で受験資格を認めることが、大学の公式HP内で発表されている。

こうした他大学での動きをみつつ、女子大学のLGBT等の大学施策の今後について、プロジェクトとして有益な情報提供を、本研究

報告を通じて本学内外に発信することを予定している。

## 注

- 1) 2005年度から2017年度までの13年間の詳細な活動内容については、「『女性論』プロジェクト研究の歩みと今後の課題—昨年度までの活動の総括、並びに今後の活動について」『2018年度相山人間学研究』を参照のこと。
- 2) 2012年度に作成した冊子に登場するのは、戦後経済の発展過程において女子大学がどのような役割を果たしてきたのかを振り返るとともに、男女雇用機会均等法の成立を経て、女子大学への社会的期待がどのように変化してきたかをとらえることを目的に2011年度「女性論」プロジェクト研究活動で実施したインタビュー調査（もしくはメール等文書での調査）に協力していただいた世代の異なる10人のOGから、再度8人に対して実施したインタビュー調査（もしくはメール等文書での調査）を受けていただいた方々である。
- 3) 日進キャンパスのキャリア教育では、通常、第4回講義にゲストスピーカーによる授業を実施しているため、通常の講義スタイルでのキャリア教育は3回分の講義で実施している。
- 4) 現在は『LGBT学生生活ガイド in ICU トランスジェンダー／GID編(2016.04.08)』が発行されている。
- 5) トランスジェンダー学生の定義は、お茶の水女子大学では、「自身の性自認にもとづき、女子大学で学ぶことを希望する人(戸籍上男性であっても性自認が女性であるト

ランスジェンダー学生)」としている。

- 6) トランスジェンダー学生の定義は、奈良女子大学では、「女性としての性自認を持つトランスジェンダー女性 (MtF)」としている。
- 7) トランスジェンダー学生の定義は、宮城学院女子大学では、「戸籍上男性であっても性自認が女性である人」としている。
- 8) トランスジェンダー学生の定義は、日本女子大学では、「出生時に割り当てられた性別が男性で、現時点で法律上の性別（日本では戸籍）が男性または女性以外であるが、性自認が女性である方」としている。

#### 引用文献・参考文献

吉田あけみ・東珠実・小倉祥子・影山穂波・藤原直子『『女性論』プロジェクト研究の

歩みと今後の課題—昨年度までの活動の総括、並びに今後の活動について』『2018年度椋山人間学研究』第14号（2019.03）pp.129～151。

椋山女学園大学女性論プロジェクト『SUGIYAMA私のキャリアマップ』（2011.03）。

椋山女学園大学女性論プロジェクト『ロールモデル集・椋山発の女性たち』（2013.11）。

椋山女学園大学女性論プロジェクト『ロールモデル集・椋山発の女性たちVol.2』（2018.03）。

吉田あけみ・東珠実・小倉祥子・影山穂波・藤原直子「女子大学におけるLGBT等の大学施策の現状—全国の女子大学HP情報を中心に一」『2019年度椋山人間学研究』第15号（2020.03）pp.104～118。